

[資料編]

NNCT Date File

【校章】



本校の校章は、前身の国立長岡工業短期大学の校章の図案を受け継いでいます（「高専」の部分に「工大」の文字があった）。短大の校章が決定されたのは、昭和三十六年十月四日のことで、作者は電気工学科学生の寺島正輝でした。図案は、当時存在した三学科を象徴的に表現したもので、外側の歯車が機械科を、電動機のポールが電気科を、原子構造を意味する点のある線輪が工業化学科を表しています。

【校歌】

作詞 宮 柊二
作曲 小松 清

一 高志台われら仰がむ
技術明晰にして深きもの
長岡高専われら仰がむ
東山つらなり立ちて
霜くだるあかつきの空
月冠とかかりたり

二 高志台われら望まむ
科学精詣にして厚きもの
長岡高専われら望まむ
信濃川下るを息めず
耕して長かなる岸
露閃々と光りたり

三 高志台われら誇らむ
工業綜合にして勁きもの
長岡高専われら誇らむ
新しき炎のこころ
生みなさむ未来の世代
わが胸底はそこにあり

作詞者の宮柊二（一九一二～一九八六）は、新潟県魚沼郡堀之内町（現・魚沼市）生まれの歌人。昭和二十八年、「コスモス」を創刊し、昭和五十二年には日本藝術院賞を受賞しています。

作曲者の小松清（一八九九～一九七五）は、秋田県生まれのフランス文学者・音楽評論家・作曲家。東京帝国大学仏文科を卒業し、のちに東大教授・東京芸大教授・東海大教授を歴任しました。

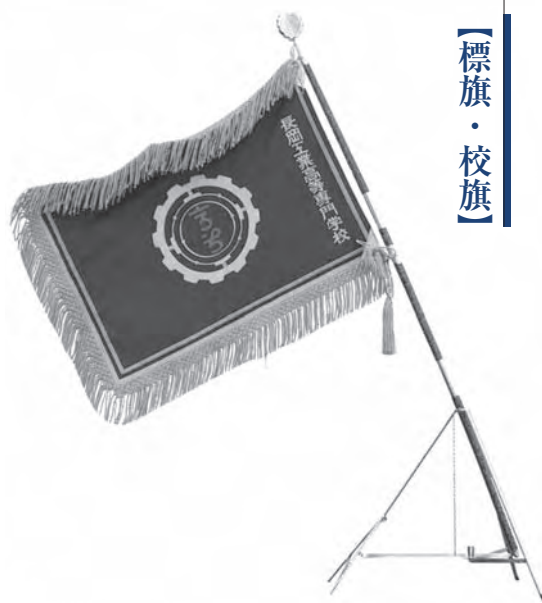
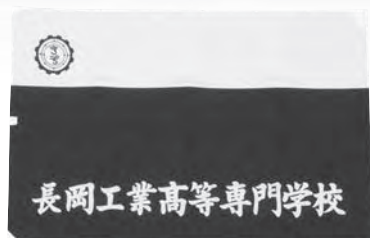
校歌の作詞・作曲が完成したのは、昭和四十一年五月のことで、第一回高志祭の最中の六月四日に校歌の発表演奏が行われました。その後、昭和四十二年十一月二十七日に宮・小松両氏が招待され、改めて演奏発表会が行われています。

なお、両氏が校歌を作詞・作曲した学校として、新潟県立見附高校・中越高校（私立、長岡市）・北越高校（私立、新潟市）が知られています。

[資料編]

NNCT Date File

【標旗・校旗】



本校では、体育大会用に作成した標旗を長く校旗に変わるものとして使用していました。正式な校旗の制定が話題になったのは、創立二十周年を控えた昭和五十六年のことでした。この年、デザインの公募が行われるとともに、校旗の作成は創立二十五周年記念事業の一環として行うこととされました。新たに制定された校旗は、昭和六十一年六月一日に挙行された創立二十五周年記念式典において披露されました。

【ロゴマーク】



本校のロゴマークは、五十周年記念事業の一環として制定されました。ホームページなどで公募を行い、二五六件の応募が寄せられました。平成二十二年十二月に最終選考が行われ、本校機械工学科一年（現二年）の吉田智広の図案が採用されました。長岡工業高等専門学校の英語表記の頭文字 NNCT をデザイン化しており、「T」の文字の形は矢印の形をモチーフにし、未来に向う学校と学生たちを表しています。また、文字を前後に配置することで躍動感を表し、文字の色（スカーレットとネイビー）は情熱と冷静さを表しています。

[資料編]

NNCT Date File

◎歴代校長

歴代	氏名	在職期間
1	山崎 貫三	昭和37年4月1日～昭和45年3月31日
2	田 健一	昭和45年4月1日～昭和53年3月31日
3	大戸敬二郎	昭和53年4月1日～昭和55年4月29日
事務取扱	高橋 旦	昭和55年4月29日～昭和55年6月10日
4	池田 朔次	昭和55年6月11日～昭和59年2月17日
事務取扱	高橋 旦	昭和59年2月17日～昭和59年3月31日
5	高橋 旦	昭和59年4月1日～平成2年3月31日
6	岡本 祥一	平成2年4月1日～平成8年3月31日
7	小川 正二	平成8年4月1日～平成15年3月31日
8	高田 孝次	平成15年4月1日～平成23年3月31日
9	渡邊 和忠	平成23年4月1日～



2代 田 健一



初代 山崎 貫三



4代 池田 朔次



3代 大戸敬二郎

◎歴代事務長・事務部長

歴代	氏名	在職期間
初代事務長	穂苅 忠二	昭和37年4月1日～昭和40年3月31日
初代事務部長	中原 二良	昭和40年4月1日～昭和43年3月31日
2	藤田 弘	昭和43年4月1日～昭和46年3月31日
3	富田 啓一	昭和46年4月1日～昭和48年3月31日
4	関口 良吉	昭和48年4月1日～昭和50年3月31日
5	清水 実	昭和50年4月1日～昭和54年3月31日
6	菊池 誠治	昭和54年4月1日～昭和56年3月31日
7	津川 勇	昭和56年4月1日～昭和59年3月31日
8	河野 伊吉	昭和59年4月1日～昭和62年3月31日
9	野田 牧生	昭和62年4月1日～昭和63年9月30日
10	中村 久夫	昭和63年10月1日～平成3年3月31日
11	笠原 勉	平成3年4月1日～平成5年3月31日
12	徳岡 弘志	平成5年4月1日～平成7年3月31日
13	佐々木正勝	平成7年4月1日～平成9年3月31日
14	山田 穰	平成9年4月1日～平成12年3月31日
15	猿橋 春夫	平成12年4月1日～平成14年3月31日
16	芳竹 道夫	平成14年4月1日～平成16年1月31日
17	大山賢之助	平成16年2月1日～平成19年3月31日
18	桐澤 行雄	平成19年4月1日～平成21年3月31日
19	濱口 清武	平成21年4月1日～



6代 岡本 祥一



5代 高橋 旦



8代 高田 孝次



7代 小川 正二



9代 渡邊 和忠

[資料編]

NNCT Date File

◎歴代総務主事

歴代	氏名	在職期間
1	小林和久	平成18年4月1日～平成20年3月31日
2	近藤俊美	平成20年4月1日～平成22年3月31日
3	山田隆一	平成22年4月1日～

◎歴代教務主事

歴代	氏名	在職期間
1	道脇 義正	昭和37年4月1日～昭和43年3月31日
2	中山 信一	昭和43年4月1日～昭和44年3月31日
3	菅原 寿郎	昭和44年4月1日～昭和48年3月31日
4	大橋 達	昭和48年4月1日～昭和49年3月31日
5	高橋 旦	昭和49年4月1日～昭和59年3月31日
6	池守 隆夫	昭和59年4月1日～昭和62年3月31日
7	豊福 英利	昭和62年4月1日～平成元年3月31日
8	室橋 奨	平成元年4月1日～平成3年3月31日
9	斉藤 宏	平成3年4月1日～平成7年3月31日
10	中澤 章	平成7年4月1日～平成10年3月31日
11	廣川 純夫	平成10年4月1日～平成13年3月31日
12	小林 和久	平成13年4月1日～平成16年3月31日
13	塩野 計司	平成16年4月1日～平成18年3月31日
14	粟野 一志	平成18年4月1日～平成20年3月31日
15	山田 隆一	平成20年4月1日～平成22年3月31日
16	山崎 誠	平成22年4月1日～

◎歴代学生主事

歴代	氏名	在職期間
1	入沢 藤英	昭和37年4月1日～昭和40年3月31日
2	田中 貞雄	昭和40年4月1日～昭和44年3月31日
3	中山 信一	昭和44年4月1日～昭和46年3月31日
4	橋本 哲雄	昭和46年4月1日～昭和52年3月31日
5	穂苅 久	昭和52年4月1日～昭和54年3月31日
6	池田 光知	昭和54年4月1日～昭和58年3月31日
7	家井 豊	昭和58年4月1日～昭和60年3月31日
8	斉藤 俊郎	昭和60年4月1日～昭和62年3月31日
9	細貝 松夫	昭和62年4月1日～平成4年3月31日
10	羽賀 泰男	平成4年4月1日～平成9年3月31日
11	久保田敬三	平成9年4月1日～平成11年3月31日
12	鈴木 雅之	平成11年4月1日～平成13年3月31日
13	岩田 實	平成13年4月1日～平成15年3月31日
14	近藤 俊美	平成15年4月1日～平成18年3月31日
15	涌田 和芳	平成18年4月1日～平成21年3月31日
16	荒木 信夫	平成21年4月1日～

◎歴代寮務主事

歴代	氏名	在職期間
1	穂苅 久	昭和49年4月11日～昭和52年3月31日
2	木嶋 熊一	昭和52年4月1日～昭和55年3月31日
3	家井 豊	昭和55年4月1日～昭和57年3月31日
4	小林 武郎	昭和57年4月1日～昭和61年3月31日
5	小方 重男	昭和61年4月1日～昭和63年3月31日
6	山井 正己	昭和63年4月1日～平成2年7月15日
7	北村 直樹	平成2年7月16日～平成4年3月31日
8	植木 邦昌	平成4年4月1日～平成6年3月31日
9	中澤 章	平成6年4月1日～平成7年3月31日
10	佐藤 勝久	平成7年4月1日～平成10年3月31日
11	反町 嘉夫	平成10年4月1日～平成12年3月31日
12	小池 幸雄	平成12年4月1日～平成14年3月31日
13	緒方 和男	平成14年4月1日～平成17年3月31日
14	佐藤 國雄	平成17年4月1日～平成20年8月31日
15	近藤 俊美	平成20年9月1日～平成21年3月31日
16	坂井 俊彦	平成21年4月1日～

◎歴代専攻科長

歴代	氏名	在職期間
1	小林 和久	平成12年4月1日～平成13年3月31日
2	近藤 俊美	平成13年4月1日～平成14年3月31日
3	塩野 計司	平成14年4月1日～平成16年3月31日
4	粟野 一志	平成16年4月1日～平成20年3月31日
5	山崎 誠	平成20年4月1日～平成22年3月31日
6	吉野 正信	平成22年4月1日～

[資料編]

NNCT Date File

◎歴代学生会長

年 代	氏 名	学 科
昭和37年～昭和38年	田辺 新太	機械
昭和38年～昭和39年	安原 功	機械
昭和39年～昭和40年	塩野 修	工化
昭和40年～昭和41年	前田 則雄	工化
昭和42年	丸山 隆	機械
昭和43年	田野 隆夫	機械
昭和44年	田野 隆夫	機械
昭和45年	若井 勇	電気
昭和46年	早津 博美	機械
昭和47年	田中 茂夫	土木
昭和48年	石黒 敏朗	機械
昭和49年	間宮 孝松	電気
昭和50年	赤塚 正利	工化
昭和51年	梅田 巖	機械
昭和52年	船越 義房	電気
昭和53年	松尾 一男	工化
昭和54年	今井 睦裕	土木
昭和55年	江川 康夫	土木
昭和56年	陸 寛光	機械
昭和57年	小林 朗	工化
昭和58年	寺沢 淳	工化
昭和59年	斎藤 正俊	機械
昭和60年	羽鳥 明	機械
昭和61年	野崎 正人	機械
昭和62年	新保 春彦	機械
昭和63年	大倉 勝利	工化
平成元年	関根 祥路	機械
平成2年	笠原 和史	機械
平成3年	岩田 秀樹	機械
平成4年	八木 政行	土木
平成5年	遠藤 雅彦	電気
平成6年	桑原 宏和	機械
平成7年	樋口 勲	制御
平成8年	大竹 洋	土木
平成9年	斎藤 透	制御

年 代	氏 名	学 科
平成10年	樋口 義文	土木
平成11年	酒井 大介	制御
平成12年	飯塚 拓也	電気
平成13年	三浦 克之	電気
平成14年	坂井 健志	機械
平成15年	伊藤 壱記	環境
平成16年	田村 澄江	制御
平成17年	青木 翔吾	物質
平成18年	岡田 竜弥	電気
平成19年	瀬田 雅文	環境
平成20年	樋口 雄一	環境
平成21年	楠田 駿	電電
平成22年	近藤 位旨	物質
平成23年	川上 雄太	電電

【注】昭和41年2月の学生総会で学生会会則の改正が承認され、役員任期が「10月1日から9月30日まで」から「1月1日から12月31日まで」に改められました。

[資料編]

NNCT Date File

◎歴代高志寮長

年代	氏名	学科
昭和38年度	三浦佳夫・竹花庄一	機械・機械
昭和39年度	前田 則雄	工化
昭和40年度	佐藤 秀夫	電気
昭和41年度	鶴巻 幸一	電気
昭和42年度	若林 秀夫	電気
昭和43年度	中川 勝代	電気
昭和44年度	本間 由文	工化
昭和45年度	安立 勝美	電気
昭和46年度	鈴木 博	工化
昭和47年度	石黒明人・稲川 元	機械・機械
昭和48年	阿部 俊夫	電気
昭和49年	相馬 稔	土木
昭和50年	佐藤 政弘	工化
昭和51年	松尾 郁夫	電気
昭和52年	近 隆志	工化
昭和53年	太田 範雄	電気
昭和54年	佐藤 敏郎	電気
昭和55年	長沢 久吉	電気
昭和56年	長谷川憲司	電気
昭和57年	加藤 秀樹	土木
昭和58年	笠原 茂正	機械
昭和59年	藤沢 博	機械
昭和60年	竹内 春夫	工化
昭和61年	針井 一義	工化
昭和62年	神田 光行	土木
昭和63年	八重沢公司	機械
平成元年	中野 晃一	電気
平成2年	桑原 賢二	機械
平成3年	竹石 哲也	機械
平成4年	遠藤 一則	機械
平成5年	大岩 将司	土木
平成6年	広瀬 昌央	機械
平成7年	渡辺 貴幸	土木
平成8年	多田 陽介	機械
平成9年	宮尾 洋平	機械
平成10年	坂上 剛	環境
平成11年	檜出 剛	物質

年代	氏名	学科
平成12年	諸橋 勝佑	電気
平成13年	数間 直也	制御
平成14年	薩美 和紀	環境
平成15年	内藤 一真	機械
平成16年	松永 和也	環境
平成17年	葦澤 哲也	機械
平成18年	佐藤 和也	制御
平成19年	高柳 拓哉	環境
平成20年	齋須 孝幸	機械
平成21年	中村 大	制御
平成22年	安達人志・岡田貴之	制御・電電
平成23年	葦澤 洋平	環境

【注】昭和48年から暦年制が採用され、任期が1月1日から12月31日になりました。

◎歴代清花寮長

年代	氏名	学科
平成4年	三膳 陽子	工化
平成5年	三膳 陽子	工化
平成6年	高橋実智己	工化
平成7年	寺西美代子	電気
平成8年	原 綾子	機械
平成9年	和泉 由紀	制御
平成10年	樋口美千枝	環境
平成11年	長岡あかり	物質
平成12年	長岡あかり	物質
平成13年	鈴木友紀子	物質
平成14年	関根 さち	環境
平成15年	渡邊美奈子	制御
平成16年	田邊麻由子	環境
平成17年	渡邊奈緒子	物質
平成18年	田邊由紀子	物質
平成19年	今津 舞・渡部志穂	電電・電電
平成20年	山本 真帆	物質
平成21年	山宮 由理	物質
平成22年	宮井 菜月	物質
平成23年	金子 彩菜	物質

編集後記

五十周年記念誌の編集作業は、平成二十年四月、五十周年記念事業実行委員会が組織されるとともに開始されました。当時の校長（高田孝次前校長）の意向を踏まえ、「時代に合った」「親しみやすい」記念誌を作成することを基本方針とし、具体的な構成については、既刊の校史等の調査を経ながら検討をすすめました。

校史にあたる「長岡高専五十年の歩み」の部分については、部門・部署ごとの歴史を詳細に記述する方法も考えられましたが、記述が詳細である分、全体像が見えづらいつという難点があるように思われ、今回は長岡高専全体の移り変わりを時代の変化と対比させ、大掴みに把握できるように編集しました。時代の大きな転換点の中で未来を見通す場合、詳細で網羅的な記述よりも、手のひらに載るような全体像を分かりやすく示すことが重要であると考えたからです。

このほか数多くの写真を掲載するとともに、地元長岡の地域史研究の成果を採り入れるなどの工夫をしました。本校と直接関係のない方にも地域の歴史の一部としてご活用いただけるのではないかと思います。

さまざま考え抜いた結果ではあるものの、校史の類としてはいささか異例のスタイルとなりました。そのため、どのように受け止められるのか一抹の不安があります。何はともあれ、この記念誌が本校の未来への一層の飛躍のために少しでも役立つことを期待しています。

最後になりますが、膨大な写真をご提供くださった穂苅久先生（本校名誉教授）、長岡の地域史研究についてご教示くださった長谷川健一先生（本校非常勤講師）に対し、特にお礼申し上げます。また、お忙しい中ご寄稿くださった皆様、各学科の先生方、常に確実な支えとなってくくださった事務職員の方々に對しても心より感謝を申し上げます。

五十周年記念事業実行委員会

記念誌部門長 田 中 聡

高志台の五十年

長岡工業高等専門学校五十周年記念誌

発行日 平成二十三年九月十三日

編集 長岡工業高等専門学校

五十周年記念事業実行委員会

発行 独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校

〒九四〇―八五三二

新潟県長岡市西片貝町八八八番地

電話（〇二五八）三二一六四三五（代表）

制作 あかつき印刷株式会社

〒九四〇―二二二七

新潟県長岡市新産四―四―七

電話（〇二五八）四六一九三九三